

恵庭市

恵庭市

面積：294.87km²

人口：65,128人(男 32,665人・女 32,463人)

平成12年5月末

市の花：スズラン

市名の由来：アイヌ語の「エエニワ」(現在の恵庭岳を指し、鋭く上がった岩という意)から転訛されてきたと言われています。

ホームページ

<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp>



恵庭市立図書館長

中島 興世

道路から見るガーデニング

庭園都市・クライストチャーチ

ニュージーランド南島のクライストチャーチに旅立ったのは、9年前の1991年2月だった。恵庭市役所まちづくり研究会の仲間が4人、花苗の生産者や造園の仕事をしている方が5人、花が好きだといって手を上げてくれた市民が4人の合計13人が参加した。

旅の目的はガーデンシティ・恵庭の展望を開こうというところにあった。恵庭は北海道一の人口増加率を示し続けていた。その躍進を支えているのは造成まもないニュータウン「恵み野」の明るいイメージ、美しい街並みといえた。しかし、20年後の恵み野は美しいか、となると、疑問だ。なぜならその明るいイメージ、美しい街並みは住宅の新しさに多くを依拠しているのだから。我が国の住宅地は出来あがったときに最も美しく、住宅が古くなるにしたがって、衰退していく歩みを半ば宿命的に繰り返してきたのではなかろうか。住宅が古くなっても、美しく成熟していくまちを作り上げる条件は何か。その解決策を求めて旅立ったのであった。

一番の視察目的はクライストチャーチのガーデンコンテストを体験することであった。クライストチャーチは世界一のガーデンシティとして名高い。ガーデンシティとは花や緑の多い庭園都市のことをいう。私的な緑の空間が都市の美観を作り出していることが庭園都市の特徴である。クライストチャーチのガーデンシティを

形成しているのは庶民1人ひとりの庭といえる。

クライストチャーチのガーデンを盛んにしてきたのは、百年も続いてきたガーデンコンテストだ。このコンテストは庭を道路から見て審査する。道路からの景観が重視されるから、道路に面している庭は塀のないオープンガーデンが多くなる。いかにきれいな庭であっても高い塀に囲まれている庭に高い評価は与えられない。フェンスの代わりに花を植え、緑をフェンスの代わりにする。コンテストによってまちの景観がますます美しくなっていく。

私たちはクライストチャーチ市公園局、カンタベリー園芸協会、クライストチャーチ美化協会のあたたかい歓迎を受けた。園芸協会のコンテストに同行して、クライストチャーチ市民の熱狂的ともいえる、心のこもったガーデンを一つひとつ丹念に視察させていただいた。

審査はいろいろな項目に分かれている。デザイン、ハーモニー、芝生・草花・樹木の管理状態、外観、貢献度、共同体としての努力と実に細かい。多年生草、宿根草を6割以上にしなさいというものもある。1年生草だけでは高い評価を得ることはできない。これを専門家がボランティアで審査する。

天国の花園と見間違えばかりのめくるめくほど美しい庭の数々は、そのまま、まちの景観の美しさとなっていた。花飾りのデザイン、ハーモニーなどどれをとっても素晴らしく、私たちに驚愕させた。

ニュージーランド、クライストチャーチ





恵庭市・恵み野



恵庭市・恵み野

恵み野フラワーガーデンコンテスト

ニュージーランドから帰国して、私たちが得た感動を1人でも多くの人に伝えずにはいられなかった。さまざまな機会を利用してクライストチャーチ市民の庭園スライドを見ていただいた。うれしいことに、見ていただくたびに感動の輪が広がっていった。

そして帰国してから半年後に、道路から見た庭の美しさを競う「恵み野フラワーガーデンコンテスト」がスタートした。クライストチャーチのガーデンコンテストを手本に、住宅が古くなっても、年輪を重ねるにつれて美しく成熟するまちづくりへの挑戦が始まったのだ。

これまでもコンテストがなかったわけではない。町内会花壇などの公共的な花壇の美しさを競う花壇コンクールはあった。しかし、町内会の花壇となると前例踏襲的になりがちだ。また、花で絵を描くなど幾何学的な模様の花壇を表彰しているところが多い。

これに対して恵み野フラワーガーデンコンテストは個人の庭の美しさを競う。自分の庭だから誰にも気兼ねすることなく、思う存分自己表現できる。また、審査に当たっては、多様性、バラエティなどを重視した。

恵み野は急速に花のまちとしてその名を高めていくことになった。コンテストを始めてわずか5年後の1996年には全国花のまちづくりコンクールで日本一の建設大臣賞を受賞、翌年には第1回北海道花と緑のまちづ

くり賞の花の部門で知事賞を受賞することになる。テレビ、新聞、雑誌などにも度々取り上げられ、全国から視察者が訪れるようになった。

花のまちづくりの定着とともに、恵み野は壁の塗り替えが早い、ゴミのポイ捨てが少ない、道路の植樹ますに市民が自発的に花を植えるなど、景観への意識の高まりをみせている。今より10年後、10年後より20年後、美しく成熟するまちづくりを目指した取り組みは確かな歩みを続けている。

恵庭の花のまちづくりは恵み野にとどまっではない。とりわけ積極的な取り組みで成果を上げているのは市役所に近い漁町商店街(遊 i n g 一番街)だ。日本一とって間違いないと思われる花の商店街となっている。1998年には北海道花と緑のまちづくり賞で知事賞を受賞、翌年には全国花のまちづくりコンクールの企業部門で建設省都市局長賞を受賞している。今年の2月には漁町商店街の方々が中心になって15名でクライストチャーチの視察に行っている。ますます花のまちづくりに弾みがついている。

自宅から見る庭から、道路から見るガーデニングへの転換は恵庭市民の中に深く定着してきている。北海道の植生の豊かさと生け花の伝統に育まれた日本女性の感性は世界に冠たるものだ。世界に誇れるガーデンアイランド・北海道は決して夢ではないのだと思う。



恵庭市・漁町商店街